

## 音楽研究科博士後期課程 3 ポリシー

### ディプロマ・ポリシー

#### ■ 人材育成目標

より高度な専門性、音楽と関連諸芸術に関する広範な理論的知識、および高度な日本語文章能力・外国語の運用能力に裏打ちされた国際感覚をベースに、演奏、創作、研究、教育等多様な領域で、現代社会における音楽芸術のプロフェッショナルを育成することを目指しています。

#### ■ 修了までに身につけるべき資質・能力

- ・高度な専門的能力と理論的分析能力、表現力を備えた、自立して活動し得る能力
- ・現代社会における演奏、創作、研究、教育等音楽芸術分野における多様な領域で中心的・指導的人材となり得る能力

#### ■ 学位の授与方針・評価方法

- ・3年以上在籍し、所定の単位を修得した上で、博士論文（研究分野によっては、博士論文及び博士学位申請リサイクル等）の審査及び最終試験に合格したものを修了と認め、博士（音楽）の学位を授与します。
- ・博士学位申請リサイクルは公開で行われ、主任指導教員を含む3名以上の審査員により評価します。
- ・博士申請論文は、予備審査の合格を経て、主任指導教員を含む学内の審査委員3名以上（このほかに外部審査委員を加えることができる）による審査及び口述試問により評価します。

### カリキュラム・ポリシー

#### ■ ディプロマ・ポリシー達成のための教育課程の編成方針

博士前期課程を踏まえ、高度な専門的能力に加えて理論的分析能力、表現能力を身につけることを基本方針としています。

#### ■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

博士研究指導、音楽創作・表現研究、音楽理論研究の3科目を通して、音楽芸術における高度な専門性を修得するための理論的分析能力と卓越した表現能力を身につけ、研究を深化させます。学生は年度ごとに研究計画を立て、立案から実施に至るまで主任指導教員と副指導教員のサポートを受けながら、公開審査の形によるドクトラル・コンサート（年次リサイクル、年次レクチャー）や2年次の特別演習（研究成果報告会）、および年度末に作成する研究報告書によって成果を発表します。

#### ■ 教育課程の評価方針・方法

ドクトラル・コンサートにおける演奏・創作・研究発表と研究報告書の内容の評価に加えて、内外の学術的刊行物への論文掲載等によってその研究成果を地域社会、国際社会に広くアピールする能力も評価します。

### アドミッション・ポリシー

#### ■ 求める人物像

- ・自ら博士後期課程での研究課題を持ち、研究への強い思いがある人
- ・自らの研究で音楽芸術文化を発展させるという強い意志を持つ人

#### ■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・音楽芸術の高度な専門能力
- ・音楽と関連諸芸術に関する広範囲な理論知識
- ・高度な日本語文章能力
- ・外国語の運用能力に裏打ちされた国際感覚
- ・博士前期課程（修士課程）において修士論文（或いは修了論文）を書いていることが望ましい。

■ 入学試験の基本的な方針

提出された作品、修士論文、実技試験、外国語、口述試問等を博士後期主任指導教員全員で審査し、総合的に評価します。